

令和3年度 福島県立図書館
朝河貫一博士から学ぶふくしまの未来 講演会
令和3年（2021年）11月28日（日）

朝河貫一と父・正澄
－ 『報恩之辞』 にみる立子山の教育 －

甚野尚志
(早稲田大学文学学術院教授)

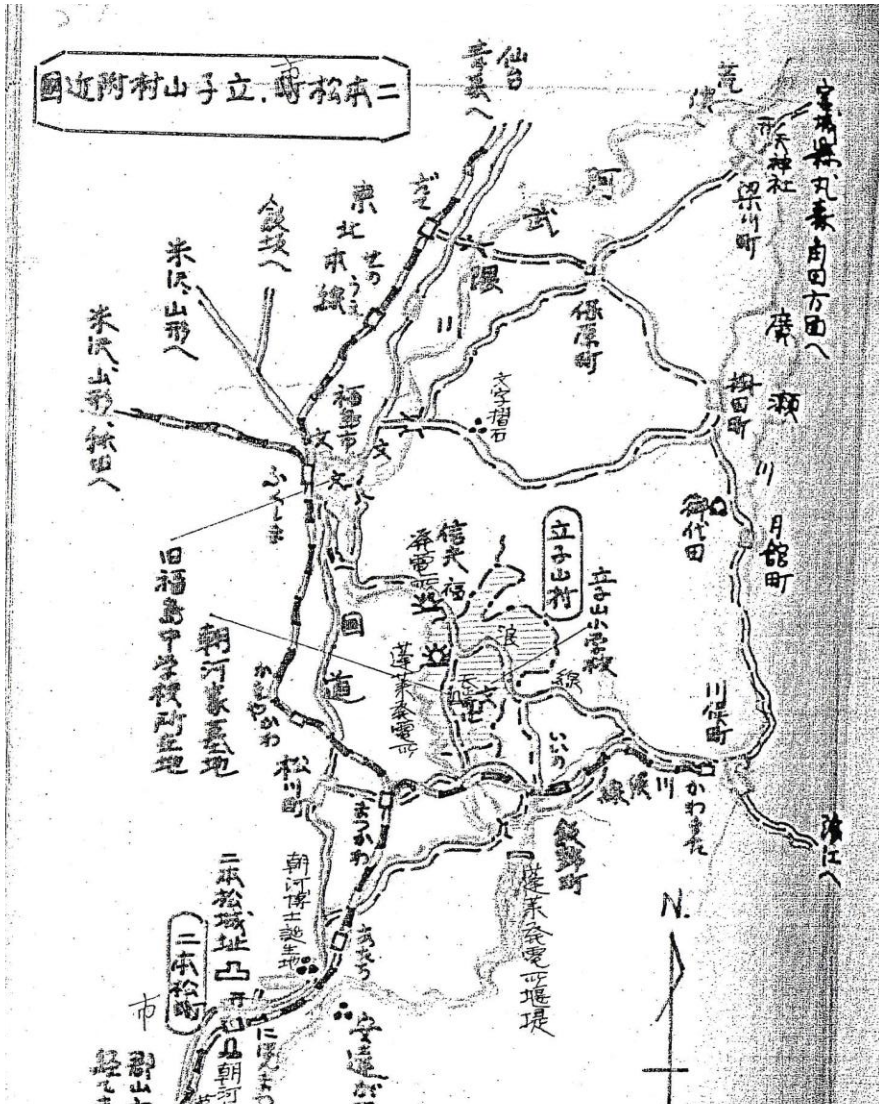
1.朝河貫一博士没後70年記念講演会in立子山（2018年10月13日）

イエール大学「朝河貫一文書」にある『報恩之辞』の紹介。

『報恩之辞』の立子山への里帰りを求める提案。NPO法人の発足へ。



2.立子山村について



立子山は、松、杉、ナラ、クヌギなどが鬱蒼と生い茂る。戦国時代以後、蒲生、上杉、本多政長の領地。養蚕業が盛ん。生糸、羽二重の産地だったので天領となる。代官所の支配。貢租賦役などは緩やか。賭博が流行。村は疲弊していた。田畑山林を質に入れ抵当にする者もいた。

朝倉鉄蔵の父、鉄次郎が繭の売り込みのため、二本松の製糸会社に出入りしていたため、小学校開設時の教員を旧二本松藩士から探し、正澄が推薦される。1874年8月7日、正澄は着任。

3. 朝河正澄の経歴

正澄は1844年(弘化元年)、二本松城の北の鉄砲谷で宗像家の息子として誕生。

宗像幸八郎昌武と称する。修学館で漢学と武技の修練。

1857年(安政4年)、藩の江戸屋敷へ行き滞在。

1861年(文久元年)、砲術師範の朝河照清に師事し砲術を学ぶ。照清の子の照成は、田口藩士松浦竹之進の長女ウタを娶り家督を相続。イク、キミが生まれる。

照成は天狗党の乱で戦死。ウタは未亡人になる。戊辰戦争で照清も戦死。

1869年(明治2年)、宗像幸八郎昌武が婿養子になり朝河功と改名。貫一の誕生後、名前を正澄と改名。1874年(明治7年)8月、伊達郡立子山小学校に赴任。

小学校教員となる際に、自身の経歴を『正澄手記』に書く(福島県立図書館蔵)。

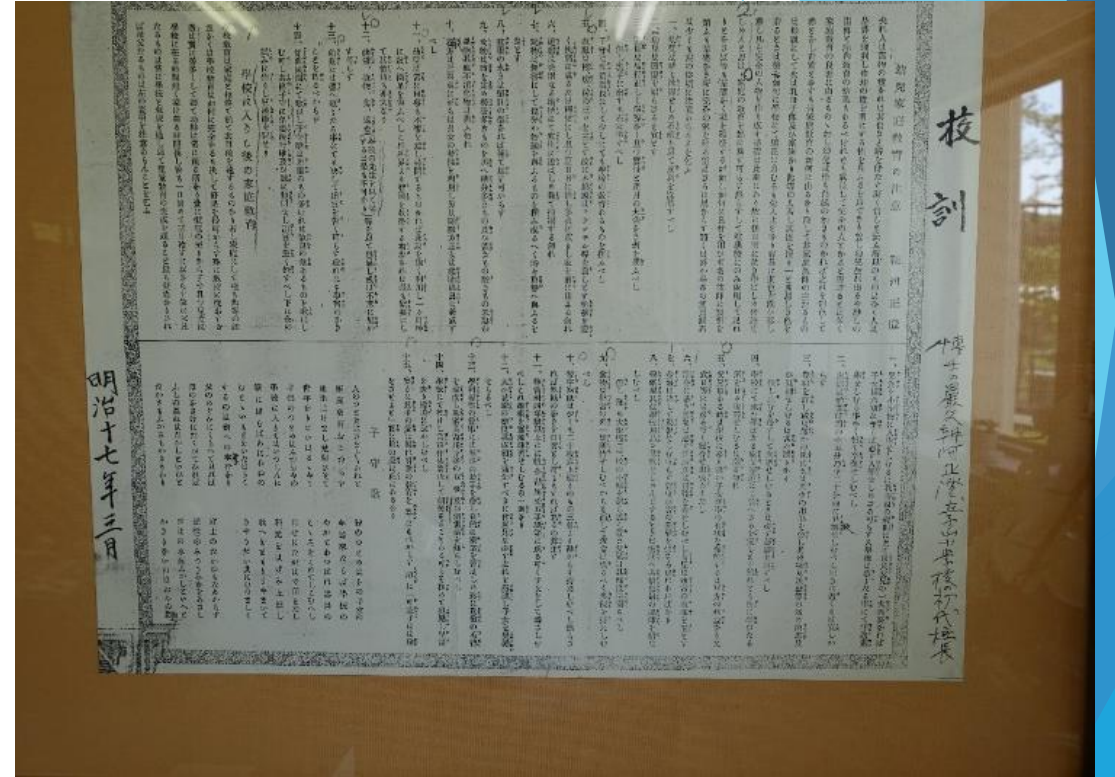
参考文献、武田徹・梅田秀男・安西金造・佐藤博幸編『朝河正澄—戊辰戦争、立子山、そして貫一へ』
(朝河貫一博士顕彰協会、2006年)

6. 立子山小学校にある正澄と貫一の写真



写真（左） 小学校の校長室にある写真

写真（右） 正澄が作った校訓



7. 天正寺から学校住宅へ

立子山小学校は、天正寺で開校した当時、生徒数は60余人だったが、翌年、1875年(明治8年)には生徒数187人に増え、狭くなる。村の中央の字竹の下19番地に学校の新築に着手。地租改正の事業による混乱もあったが、建築用係の宝槻直市、阿部善次郎の尽力で、翌年、明治9年7月に開校式。明治10年に総二階に改造。二階の東端の二室が教員事務室と校長住宅となる。正澄一家は天正寺から移る。

貫一は5歳の夏から1895年に渡米するまで約22年間、この校長住宅を勉学と生活の場とした。幼友達は菅野喜代治、阿部益蔵、阿部善吉など。三久保山、栃窪山での百合掘り、蕨取り。自然に囲まれた生活---田畑の虫、裏山の蝉の声、紅葉の向い山、雪降り積もる館の山。